

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 30 年 6 月 24 日現在

機関番号：14601

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2017

課題番号：25381194

研究課題名(和文) 語彙，教科を重視した学年別漢字配当表の見直し

研究課題名(英文) Review of the Kyoiku Kanji by vocabulary and subjects

研究代表者

棚橋 尚子 (TANAHASHI, Hisako)

奈良教育大学・国語教育講座・教授

研究者番号：20272271

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：平成29年3月の学習指導要領改訂で学年別漢字配当表に配当された漢字は1,026字となった。平成22年の常用漢字表改定を受け増加した漢字のほとんどは、常用漢字表改定の際付加された都道府県名に関する漢字である。この例からも理解できるように、学年別漢字配当表における漢字配当の論理の一つに「教科での学習との関連」がある。本研究では、配当表に配当された漢字を、教科学習との関連を意識して指導できるように、二つの柱の研究を行った。一つ目は漢字習得に際して習得語句のレベルから配慮すべき点を指摘したことである。もう一つは第5学年の漢字を対象に教科を意識した語彙表を作成したことである。

研究成果の概要(英文)：The Kyoiku kanji has been increased to 1026 by the revision of "Course of Study" in 2018. This revision is linked with the revision of the "Table of Chinese Characters in Common Use" in 2010. Most of the kanji that increased at that time is the kanji of the prefecture name. They will be learned by 4th grade students in elementary school. As can be understood from this example, one of the logic for determining educational kanji is "association with learning in the subject".

In this research, I aimed to teach kanji for education from the relation with learning of each subject. So I did two studies. The first is to clarify points to be considered from the level of phrases in learning kanji. The other is to create a vocabulary table that is conscious of subjects for the kanji in 5th grade.

研究分野：国語科教育学

キーワード：学年別漢字配当表 鍵的語彙 教科 語彙表

1. 研究開始当初の背景

本研究は、学年別漢字配当表に配当された漢字を語彙、教科の関係からとらえ直そうとするものである。以下、これまで発表した資料に加筆修正を加える形で研究の背景を述べる。

(1) 漢字の学年別配当と教科

近代教育制度の開始以来、文字の習得は国語科に課せられてきた。中でも漢字は戦前より一貫して1000字前後の習得(書けること)が期待されてきた。旧字体の煩雑さや教育と社会との関係性への不配慮等から、戦前の学習者の学習負担は現状より大きなものであった。義務教育に配当される漢字は、戦前は文部省の責任のもとに学習用漢字として定められてきたが、戦後になると国語審議会で決定した当用漢字を教育の世界に反映させるようになった。「当用漢字別表」として告示されたいわゆる「教育漢字」は、当用漢字1850字の中から881字を選んだものである。これらは、「義務教育の期間に読み書きとにもできるようにする」とされ、転校などの事情で漢字の習得に不都合が生じないように、小学校期間の配当基準を決めることとなった。その調査作業に携わったのは1952(昭和27)年に発足した漢字学習指導研究会である。同研究会の提示した配当基準の中には「提出時期」として「他教科の学習に必要な漢字は、その教科の進度を考えて出す」というものがあった。

当時の文部省は漢字学習指導研究会での議論をまとめた『教育漢字の学年配当 漢字学習指導実験調査報告』の中で、初出の時期について「特に各教科で国語の教科書に出てくるよりも早く出して用いた方が便利な漢字を含めても、他教科で読みまたは読み書きの最初の指導をしなければならない字は、児童や教師にそんなに多くの負担をかけるほど出てはこないと考えられる。」とし、国語科以外の教科における漢字指導の可能性に踏み込んだ示唆をしている。しかしながら、漢字の習得が国語科に任されてきたことは先に述べたとおりである。教科の進度に配慮し、学習者が教科学習に困らないようにということであったとしても、他教科の内容に関連性の強い類の漢字を国語科の中で学習する必然性は生まれにくい。教科書でもそれらの漢字の多くは、いわゆる「コラム单元」の中に不自然な形で提示される現状がある。

私が一員として研究に参加した特定領域研究「代表性を有する大規模日本語書き言葉コーパスの構築(日本語コーパス)」における研究チーム「言語政策班」では、平成17年度使用の全教科教科書をもとに「教科書コーパス」を作成した。このコーパスに基づき、教科に特徴的に提示される漢字を、対数尤度比を使って算出した。

【表1】はその結果である。これらの漢字は、当該教科の教科内容と密接にかかわるもの

が多い。例えば社会科であれば第1位の「権」は【表2】に示すとおり、社会科教科書で多くの熟語となって学習者の目に触れることになる。

【表1】第6学年配当漢字の各教科特徴度(10位まで)

1	国語	社会	算数	理科	音図	家庭	保体
2	論	権	値	層	奏	洗	脳
3	討	憲	乳	磁	詞	針	臍
4	熟	皇	縦	灰	忘	盛	吸
5	俳	幕	枚	蒸	尺	窓	乱
6	看	将	段	肺	孝	裏	痛
7	姿	聖	並	砂	朗	源	糖
8	否	城	垂	呼	樹	穴	危
9	暮	忠	割	吸	染	暖	策
10	届	敬	簡	臍	片	域	亡

【表2】「権」を含む語句の分布

提示語句	社会	国語	提示語句	社会	国語
権利	34	4	関税自主権	2	
基本的人権	11	1	政権	2	
自由民権	9		権限	2	
選挙権	6		実験	1	
人権	5		国際人権規約	1	
国民主権	5		人権教育	1	
主権	4		人権啓発	1	
参政権	3		生存権	1	
治外法権	3		権力	1	
執権	3		権		

もともと私が本研究を始めるきっかけとなったのは、文部省科学研究費(創成的基礎研究費)下の研究「国際社会における日本語についての総合的研究」の教育チーム(略称新プロ「日本語」)に参加したことにある。その報告書に細井勉氏の講話記録がある。細井氏の指摘は「教科内容の理解と漢字の意味理解に深いつながりがあること、それを教師や教科書編集者が見落としがちであること」「国語でもっと漢字の意味を」ということであった。この発言からも看取できるように漢字習得に関しての一般的な理解は、「漢字の指導は国語で行うものだ」という前提に立ったものだという事である。

(2) 教科書の漢字提示の実態と学習者

前述した新プロ「日本語」において私が行った調査に教科書における漢字指導の提示実態を分析したものがあ

る。その調査は、「ルビ付き」か「交ぜ書き」かという、主として漢字語句の表記のあり方を問題にしたものである。その結果、他教科

教科書においては日常性に乏しい専門用語が「漢字表記ルビ付き」の形で示されることが多いことが理解できた。例えば「水溶液」「地層」などがそれである。交ぜ書きにしまうことで意味が取りにくくなる事態を回避する措置だと考えられる。

日本語表記の場合、「漢字仮名交じり」と一口に言われることが多いが、この表記法は日本語母語話者以外の者には相当複雑なシステムだと言える。書く際の字形認識もさることながら、読みについても、音読み、訓読みの別があるばかりでなく、音読みには呉音、漢音などの時代的区別や慣用音などもあり、非日本語母語話者を悩ませることになる。ある熟語で一つ読み方を覚えたと思っても、次に見る熟語でその読み方が活用できないということは彼らにとって日常的な事例である。訓読みについても漢字の意味を日本語に基づき受容するために、上、下、生などを筆頭に一つの漢字に複数の訓読みを持つ文字が少なくない。

しかし、このような状況は日本語母語話者であっても少なからず経験することである。映像文化の進展止まない近年の生活では読書はますます子供たちの手から離れる傾向にあり、漢字や漢字語句と出会う機会が少なくなっている。したがって、読書活動の充実を図ることを本気で考えていく必要があるが、その一方で機会をとらえて計画的に漢字語句を指導していくことが語彙形成およびそこに派生する思考力等の一連の能力育成において非常に重要だと言える。このようなことを考えた場合、学年別漢字配当表に配当された漢字を、より学習機会のある国語科以外の「他教科」で行うことを積極的に展開するとともに、一つ一つの漢字で学ぶべき語句を学習者に提示する必要があると言える。

2. 研究の目的

これまでの研究や考察を通して明らかになったことは、以下のようにまとめられる。

教科内容の理解に漢字が大きく関わる。

ルビ付きであっても「見慣れる」ことが漢字習得の前提となる。

漢字によっては教科内容の要求によって提示されるものがある。

先述したように、学年別漢字配当表を作成するに当たり漢字学習研究会は配当基準の方針の一つとして「他教科の学習に必要な漢字は、その教科の進度を考えて出す」とした。

しかしながら、学習意欲と習得成果との関係に鑑みると、必然的に「書く」場が設定できる国語科以外の教科で、一定の漢字は習得させていくべきではないかというのが私の見解である。もちろん、すでに少なからぬ教師が『国語』科以外の教科の授業で、漢字の指導をすることがある」としているように経験的に実施されている側面もあるが、語彙として示すことにより、教科内容の理解にも資することが可能であると考えられる。

さらに、現在字種だけが提示されている「学年別漢字配当表」が、「学習基本語彙」の表となり得る可能性も十分にあり得る。本研究はむしろその点を目指して研究を展開していこうとするものである。

3. 研究の方法

本研究では期間中、次の2種類の方法を用いて研究を重ねた。

(1) 他教科頻出漢字の習得調査

学年別漢字配当表に配当された漢字のうち、国語科以外の教科書に特徴的に提示される漢字の、教科内容とかかわる漢字語彙がどの程度学習者に定着しているかを明らかにすることを目的とする。研究では、小学校第6学年に配当された教育漢字のうち、平成17年度特定領域研究「日本語コーパス」で知見が得られた、社会科および理科の教科書に特徴的に提示される漢字語彙の定着状況を調査し、分析を行うこととする。

調査概要

調査概要は以下のとおりである。

調査対象

奈良市内の国公立中学校4校の第1学年生徒、計517名

調査日時

平成25年10月

調査方法

漢字調査(質問紙法)による30問の書き取り調査

なお、調査においては「ターゲット漢字」として社会科と理科より以下の漢字を抽出、それぞれ対応する漢字語句を選定した。

(社会科) 権、憲、皇、幕、将、聖

(理科) 層、磁、灰、蒸、肺

調査語句(語句によっては文脈付与)

権利/基本的人権/自由民権運動/選挙権/権限/国民主権/参政権/治外法権/執権/権力/大日本帝国憲法/国連憲章/天智天皇/中大兄皇子/皇帝/皇族/室町幕府/将軍/戦国武将/聖地/聖典/聖火/地層/断層/電磁石/方位磁針/石灰水/火山灰/蒸発皿/肺炎

調査時間

10分間

分析

以上の調査の結果を「ターゲット漢字」ごとに分析した。

(2) 学年別漢字配当表をもとにした習得重要語の措置

平成29年3月告示の学習指導要領では、平成22年の常用漢字表の改定を受け、学年別漢字配当表の漢字を変更した。これは、平成元年の改訂における増加以来の変更である。また、この改訂で増加した漢字のほとんどは、常用漢字表改定の際付加された都道府県名に関する漢字である。この例からも学年別漢字配当表における漢字配当の論理の一つに「教科での学習との関連」があることが

理解できる。

本研究の目的は、学年別漢字配当表を使用語彙や、教科学習との関連から語句を意識したものに改訂してみてもどうかという考えから始めたものであるが、今回の改訂で変更があり、新配当が定まったため、本研究について期間中に軌道修正をし、平成 29 年の学習指導要領における学年別漢字配当表に示された漢字全体について、どのような語句を習得させる語句として学習者に提示するかというデータベースを構築することにした。

調査の手続き

調査対象

平成 29 年の学習指導要領で提示された学年別漢字配当表の漢字のうち、本研究においては漢字と教科との関連が高くなってくると考えられる第 5 学年の漢字 193 字をひとまず対象とすることにした。

調査手順

- 1) 小学生用の漢字辞典 5 社の記述より、対象となる漢字をもとに構成された熟語を取り出しその熟語から、5 社ともに掲載され、かつ第 5 学年配当までの漢字でできている熟語を「習得基礎語彙」として規定する。
- 2) 平成 17 年度版の教科書コーパスと対照させ、教科書による使用頻度の高い語句を「教科習得語彙」として規定する。
なお、データベース作成に当たって使用した辞書は以下の 5 冊である。(社名 50 音順)

【表 3】調査対象とする漢字辞典

社名	辞典名	代表編集者 (監修者)	発行年
旺文社	小学漢字新辞典 第四版	尾上兼英	2010 年
学研	新レインボー小学 漢字辞典 改訂第五 版	加納喜光	2015 年
小学館	例解学習漢字辞典	藤堂明保	2014 年
ベネッセ	チャレンジ小学漢 字辞典 第六版	湊 吉正	2015 年
光村教育 図書	小学新漢字辞典	甲斐睦朗	2007 年

本稿では直接触れることはないが、本研究における記載には、会社名は明示せず、ランダムに A から E の記号を用いてそれらを表すものとする。

4. 研究成果

(1) 他教科頻出漢字の習得調査について
課題のある語彙

以下に示す 15 語句が、今回の調査で「課題がある」と判定した語彙である。(括弧内は正答率)

- 1) 国連憲章 (17.99%)
- 2) (宗教の) 聖典 (21.66%)
- 3) (北条氏は) 執権になった (25.34%)

- 4) 参政権 (27.85%)
- 5) (政府の) 権限 (29.21%)
- 6) 中大兄皇子 (31.53%)
- 7) 天智天皇 (37.32%)
- 8) 皇族 (40.43%)
- 9) 治外法権 (41.01%)
- 10) (隋の) 皇帝 (44.29%)
- 11) 大日本帝国憲法 (44.68%)
- 12) 肺炎(にかかると) (49.32%)
- 13) 戦国武将 (56.92%)
- 14) 方位磁針 (59.77%)
- 15) 室町幕府 (59.66%)

漢字ごとの「鍵的語彙」の抽出

漢字ごとに、「どの漢字語句が書けていることが、その漢字が定着しているとみなせるか」という指標を求めするために、任意の漢字の平均正答率と、各設問正解者の「ターゲット漢字」全体の平均正答率との「差分」を求めた。

3)~5)の「権」を使って説明すると、「権」を含む問題全体の平均正答率(A)60%に対し、1問目「権利」が正解だった解答者の「権」の問題全体の平均正答率(B)は68%となり、Aとの差が8ポイントとなる。この差分が高い漢字ができていない解答者ほど「権」を含む語句が定着していることになる。逆に差分の高いものは「書けていない」解答者が多い漢字語句であると言える。本発表では差分が20ポイントを超える語句を「鍵的語彙」と名付け、指導に注意を払うべき語句として提示した。

今回の調査の範囲で特に顕著に指導が必要だと考えられたのは以下の語句である。

【表 4】差分の高く見られた語句

権	参政権	執権	権限	治外法権
聖	聖典			
磁	方位磁針			

漢字指導に向けて

以上の分析の結果、事前に立てていた仮説である「他教科に頻出し、国語科に提示頻度の少ない漢字語句を学習者は十分に書くことができない。」という問題は、明確に判断することが困難だという結論に至った。「憲」「皇」のように定着が不十分な漢字及び語句もあるが、一律には断ることができず、やはり、語句による差を無視するわけにはいかなんとも言える。分析で導き出した「鍵的語彙」は、その場合の指導のポイントとなる語句の集まりだと言え、この方法で他の漢字語句も調査する必要が感じられる。

以下に本研究で導き出すことができた漢字指導の指針を掲げる。

1) 抽象的な語句に配慮が必要である

社会科と理科との比較などから、社会科より理科に定着率が高い語句が多かったことが判明した。これは、理科の範囲で書いた語

句が、「蒸発皿」「電磁石」など具体物を指すものが多かったのに対し、社会科では「人権」「憲章」など抽象的な概念として表されるものが多かったためだと推測できる。したがって、そのような語句こそ丁寧に扱い「権」や「憲」の意味を十分に考えさせる機会を教科内で与える必要があると言える。

2) 教科専門語句でない語句を丁寧に扱う必要性

「権利」「人権」などの語句に比し、正答率の思わぬ低かった語句に「権限」がある。前者の語句は、テスト等で書くことを想定し、生徒たちが自身で学習する場が存在することが考えられるが、後者はその限りではない。むしろこのような語句を「落とさないで」丁寧に指導する必要性が感じられる。

3) 専門用語の「意味」を指導する重要性

「参政権」については、間違いのほとんどが「賛成権」とするものであった。「政治に参加する」という意味的な部分の指導が不十分であったのではないかと考えられる。「治外法権」や「執権」なども「名称」として指導するのではなく、その意味を丁寧に考えさせる必要があると言える。少し視点が変わるが、社会科に固有な用語である「固有名」については、書かせることを前提とするのであれば「覚えておくように」という指導のみでは不十分であり、少なくとも漢字に注目させるような機会を授業内で与えるべきだと考えられる。

4) 個々の生徒の「間違え方」の傾向を押さえ指導に生かす

今回の調査では、採点について「類型化」したため、生徒一人一人の「間違え方」に傾向があることがよく理解できた。字形の覚え方に問題がある生徒、漢字の意味が理解できていない生徒など、どこに指導の力点を置くべきか、一枚一枚の解答用紙からかなり伝わるものがあることが感じられた。漢字テストの採点というと、是か非かという観点でなされる向きも少なくないが、今回のような採点や、その採点を通じた教師、学習者の振り返りが、以後の漢字学習および指導に生かせるのではないかと考えられた。

(2) 学年別漢字配当表をもとにした習得重要語の措定

本研究において5社の漢字辞典から抽出した語句は作業の結果、以下のように絞られた。

抽出全語句 2,195 語句

全社掲載語句 1,380 語句

第5学年配当漢字語句 1,073 語句

このうち、の1073語句が習得基礎語彙である。さらにこれらの語句を平成17年度に国立国語研究所が作成した教科書コーパス(今回は「少納言」を利用した)と対照させた結果、以下の【表5】における囲み部分に示す44語句を第5学年における各教科の「教科習得語句」と措定した。なお、教科書からの語句抽出に当たっては、サンプル数の

関係から小学校第6学年までの範囲の語句を対象とした。

【表5】教科で習得する語句(案)

漢字	語句	国語	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭科
液	液体				2			
往	往復	1			26			
技	技術	8	11					
型	型紙							11
現	現地		6					
効	効果	4						
	効率		4					
耕	耕作		1					
	耕地		7					
興	興味	3						
酸	酸化		4		16			
	酸素		2		24			
賛	賛成	2						
支	支点				7			
	支配		3					
条	条件		1	1	64			
	条約	1	11		1			
情	情景	3					1	
織	織物		1					3
政	政治	2	15					
	政府		8					
勢	勢力		11					
製	製品		29					
税	税関		3					
	税金		3					
絶	絶対	3						
態	態度	2						
銅	銅山		4					
燃	燃料		6					
比	比例	1		6				
武	武器		1					
	武具		2					
	武芸		4					

	武士		59				
	武将		1				
仏	仏教		10				
編	編曲						15
保	保護	1	4				
貿	貿易		18				
輸	輸出		14				
	輸入		28				
留	留学		8				
領	領地		12				
	領土		3				

表中、特に注意したいのが一つの漢字がすべて、同一教科で複数の語句としてカウントされる「耕」(社会科)、「酸」(理科)、「政」(社会科)、「税」(社会科)、「武」(社会科)、「輸」(社会科)である。これらは「教科に関連性の高い漢字」だと判断できる。このような漢字については、当該の教科において習得することを考えていくべきである。複数の用例の検討を通して漢字そのものの意味を捉えさせることが、教科内容の定着にもつながっていくと考えられる。

(3) 研究の成果と課題

本研究においては、二つの視点より学年別漢字配当表の漢字について考察を進めてきた。その結果を総合して考えると、本研究の成果は、多くの語句を指導者が提示することで、学習者が漢字単体の意味をしっかりと押さえることの重要性が改めて指摘できたことである。

語彙表については、第5学年を対象とした成果物にとどまったが、小学生用漢字辞典のデータは、第1学年から第6学年のすべての配当漢字について抽出済みであるため、今後の学年についても表化し明示していくつもりである。

またこのたびの抽出語句は漢字語句に限って行ったため、和語や複合語についてもさらに検討を重ねたい。慣用句なども検討の対象となると考えている。

語句を抽出、検討していく中で、小学校用の漢字辞典の提示語句がかなり難易度の高い語句までカバーしていることに驚く一方で、教科書に使用されている語句は意識的に平明にしてあるように感じた。語彙育成の観点からは少し物足りないようにも感じられた。教科書はもちろん「分かりやすさ」が基盤になくはないと言えるが、少なからず検討の余地がありそうである。

漢字の力は語彙の力であり、思考・判断・表現といった諸能力を支える根幹の力である。今後も、児童生徒が漢字習得に学習の必

然性を感じながら取り組めるような方策を考えていく所存である。

引用文献

国立国語研究所 常用漢字の習得と指導 付・分類学習漢字表東京書籍, 1994, 190

5. 主な発表論文等

(研究代表者, 研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計3件)

棚橋尚子, 学年別漢字配当表に配当された漢字と習得語彙との関係, 全国大学国語教育学会発表要旨集 125, 2013, 307-310
棚橋尚子, 積極的に漢字を使用する態度の育成, 教育科学国語教育 794, 2016, 75-79
棚橋尚子, 国語科教育の立場から考える「字形」の諸相 国語学力育成と学習者の目的意識形成の問題を巡って, 日本語学 35/12, 2016, 70-83

[学会発表](計1件)

棚橋尚子, 年別漢字配当表に配当された漢字と習得語彙との関係, 第125回全国大学国語教育学会広島大会, 2013

[図書](計1件)

棚橋尚子ほか, 広島大学附属小学校, 国語科教育実践の開拓と創造 吉田裕久先生とともに, 2015, 17-24

[産業財産権]

なし
 出願状況(計 0 件)
 取得状況(計 0 件)

[その他]

ホームページ等
 特になし

6. 研究組織

(1) 研究代表者

棚橋尚子(TANAHASHI Hisako)
 奈良教育大学・国語教育講座・教授
 研究者番号: 20272271

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

なし

(4) 研究協力者

なし